

# いのちと地域を守る

# 防災・減災のページ

## 鎮魂込め

津波の高さを示した碑。津波の記憶を風化させまいと、市内の至る所に設置されている。ロウソクを挿した形に、犠牲者への鎮魂の思いを込めた=パンダアチエ市内



## 命の船

津波で海から何ともも流れされ、民家の屋根に乗り上げた漁船。逃げ遅れた5人の住民が乗り込み、助かったという。見学用にスロープとやぐらが設けられ、国内外から訪れる人が絶えない=パンダアチエ市内



## 安らかに

津波で犠牲となった1万5000人が土葬された块塙墓地。イスラム教のコーランを刻んだ碑に囲まれている。小さな村ほどどの土地に、多くの墓があるを一度に葬るしかなかったのは、気温が30度を超えて悪化した衛生事情があった=パンダアチエ市内



## 苦悩訴え

津波博物館には、被災当時の写真を展示するコーナーがある。暗い空間に次々と写真が映し出され、見る者に住民の悲しみや苦悩を訴える=パンダアチエ市内

# 悲劇を忘れない

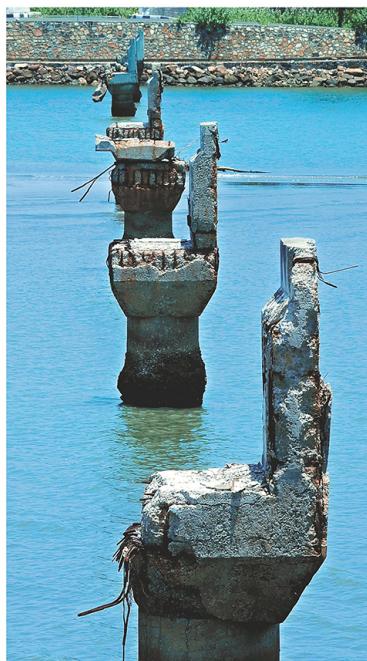
## 震災の風化と闘うインドネシア

日本からおもむろ〇〇〇〇離れた赤道圏の被災地はいま、丁度豪雨がねた。  
SUN AYU」の標の風化と弱っているスマトラ沖地震で、海から何とも離れた老街で、震度6強の大きな揺れが突然、2004年スマトラ沖地震で、6万人が犠牲になったヤシの街を襲った。また、震度7の震度は、2011年開催の津波訓練は、新規社のパンダアチエ市(北マレーシア)のパンダアチエ市(北マレーシア)で開催された。この震度は、津波を防ぐための建設工事に着手した。行は、震災後によどぎ水を浸す。

(写真:佐々木朝)

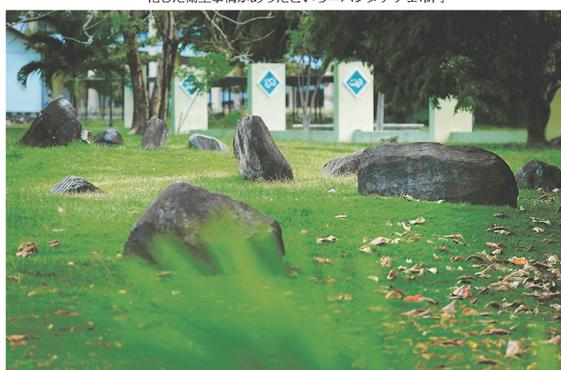
## 後世へ

奇跡的に津波に耐えたイスラム教の寺院で、放課後を過ごす子どもたち。災害の記憶はどう後世に引き継いでいくか、課題は重く大きい=パンダアチエ市内



## 破壊力

小さな漁村を流れる川の河口で、津波に襲われた当時の姿を残す橋脚。巨大津波の破壊力を物語る=パンダアチエ市ムラクサ地区



## 手作り



住民手作りの津波モニュメント。村を襲った津波の高さに大破したトラックを並べ、「悲劇のTSUNAMI」と記した=インドネシア・アチェフサル県